

ガラ・ルファの生種苗産技術の確立を目指して

水産科 2年 阿久津丈 峯田侑亮

1. 研究の動機

去年の発表を聞いて興味を持ちました。そしてガラ・ルファの種苗が今よりも多く安定的に生産できれば、現在足湯を設置していただいている『いさみ館』さん以外の施設にも置いてもらえるのではないかと思います、この研究を選びました。

2. 目的

より多くの卵を確保するための技術の確立を目指すにあたり、採卵ネットの作成、修復を行うこと。また一年を通して、計画的に採卵が可能になり安定的に種苗生産ができるようにホルモン注射などもおこない採卵方法を確立することです。

3. 活動内容

①水槽のサイズにあった採卵用ネット作成をして、卵を下に落とし親魚に食べられないようにする。

②産卵期にホルモン注射（ゴナトロピン）を雌に打ち、採卵用ネットがある水槽に移しその後産卵をさせる。

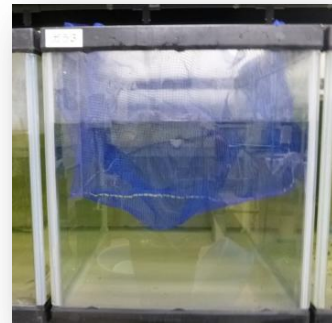


図1. 採卵用ネット

4. 結果と考察

ネットを取り付けることによって魚が飛び出し、死亡してしまいました。また、ネットによって魚の皮膚がすれ、弱ってしまったため、採卵が上手くできません

でした。ホルモン注射は産卵期に注射したためホルモン剤の効果なのか、自然産卵なのか判断できませんでした。また、注射後ほぼ全滅したため、中止しました。

今後、ホルモン注射は産卵期以外で行い、正確な結果を調べる必要があります。

5. まとめ・今後の課題

普段の魚の管理がきちんと行えず、変化に気付くことができませんでした。また、ガラ・ルファは体に傷ができると共食いの対象になり、それが原因で死亡するので、産卵用のネット材料を変えたりして対応をする必要があります。さらにホルモン注射の方法も適当にせずしっかりと行っていきたいです。今回、新たに採卵用ネットを改良したので、引き続き採卵の確認を行いたいです。